

# 本検討会のスケジュールと 前回検討会の概要

---

# 本検討会のスケジュール（予定）

- 令和6年度内に3回開催して中間とりまとめを行い、その提言を交通政策審議会気象分科会へ報告。その後令和7年7月頃までに2回程度開催して最終とりまとめを行う。

## 第1回（令和6年9月4日）

- 検討会の開催趣旨について
- 台風情報の現状と課題について
- 検討課題と論点について

## 第2回（令和7年1月8日）

- 台風情報の改善の方向性について

## 第3回（令和7年2月14日）

- 台風情報の改善案について
- 台風情報の改善に関する中間とりまとめ案について

今回議論する内容

3月中旬までに中間とりまとめの公表

## 第4回（令和7年4月～5月頃）

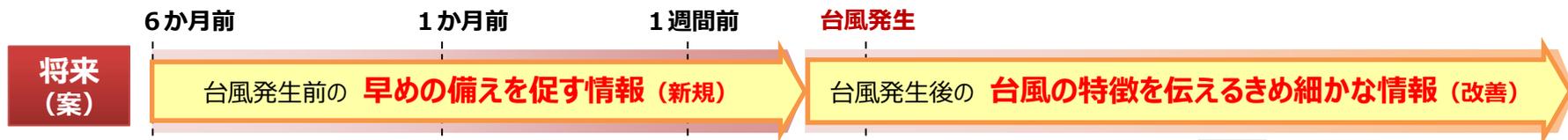
- 台風情報の改善の具体について
- 台風情報の解説強化や防災上の留意事項等について

## 第5回（令和7年6月～7月頃）

- 台風情報の改善に関する最終とりまとめ案について

# 第2回検討会の概要（台風情報の改善の方向性）

➤ 第2回検討会では、台風発生前の「早めの備えを促す情報」及び台風発生後の「台風の特徴を伝えるきめ細かな情報」のそれぞれの情報について、改善の方向性の議論を行った。



## 「早めの備えを促す情報」の方向性

- ✓ リードタイムの長さに応じた予測可能性を踏まえた情報とする。  
 具体的には
  - ・気象学的に無理のない現象（時間・空間スケール）を予報する。
  - ・海外気象機関の情報例を参考に、リードタイムの長さに応じた情報とする。
  - ・「台風の特徴を伝えるきめ細かな情報」と可能な限りシームレスな情報とする。
- ✓ 不確実性を考慮しつつ、一般向けに分かりやすい情報とする。  
 具体的には
  - ・不確実性を考慮したアンサンブル予測を基に、確率的に予報する。
  - ・海外気象機関（特に解説が充実している米国）の情報例を参考に、確率や地図形式の情報に見出しや解説をつけて提供する。
  - ・見出しや解説では、見通しを端的に分かりやすく伝える。

項目	「台風の特徴を伝えるきめ細かな情報」の方向性
① 予報円と暴風警戒域	予報円と暴風警戒域の表示方法は維持しつつ、進路予報の不確実性をより詳細に表現するための情報の提供方法を検討する。
② 予報の時間間隔	時間間隔を細かくする。また、予報円を予報時刻ごとに表示できるようにするなど表示方法を工夫する。
③ 風の情報（風分布）	4象限などの詳細な風分布の解析・予報情報について、シンプルかつ分かりやすい形式で提供する。また、進路予報の不確実性を考慮した風分布の表示方法についても検討する。 ※第3回でも引き続き議論
③ 風の情報（確率情報）	「暴風域に入る確率」の改善を実施し、改善した確率情報については、利用者にとって分かりやすい既存の時系列情報に反映するとともに、利活用の促進につながる表示方法を検討する。
④ 波浪・高潮の情報	台風情報と台風の位置・風の分布などが整合した情報を提供するとともに、予報期間を延長する。また、予測の不確実性を考慮した確率的な情報の提供についても検討する。
⑤ 予報期間	予報期間の延長は、社会のニーズや、「早めの備えを促す情報」の1週目の情報等の他の情報との整合などを考慮し、今後の精度向上を踏まえ検討する。

## （共通）提供方法における方向性

- ✓ 台風本体だけでなく台風から離れた場所でも警戒が必要であることを伝えるため、台風情報と雨や波浪・高潮等の情報がリンクする形で提供する。また、温帯低気圧化後に警戒を呼びかける情報や暴風が吹く期間が分かる情報についても、台風情報と結びつけた提供方法を検討する。

◆ 今回（第3回）の検討会では、頂いたご意見を踏まえて、各情報の改善案について議論を行う